

# 令和6年度第1回四万十町子ども・子育て会議 会議録

日 時：令和6年8月6日（水） 18時00分～19時40分

場 所：四万十町役場 東庁舎2階多目的小ホール

出席委員：武吉悠、清水亜也子、高橋知佐、武山幸恵、福留博子、樫本多美子、福留博子  
長森伸一、今西浩一、

欠席委員：西森千紋、国澤豪人、小嶋二夫

事務局：高瀬真也、井口佐奈恵

健康福祉課：戸田ゆかり、片田由唯

町民課：小松 充

須崎福祉保健所：中岡朋子

JMC(株)：榛葉絵美

---

## ○会議次第

1. 開会及び挨拶
  2. 委員（会長及び副会長）の選出について
  3. 議事
    - （1）第3期子ども・子育て支援事業計画の概要について
    - （2）ニーズ調査結果の報告について
    - （3）その他
  4. 閉会
- 

## ○会議議事録

1. 開会 事務局
2. 挨拶 生涯学習課長
3. 委員（会長及び副会長）の選出について  
会長を武吉悠氏、副会長を福留博子氏とする旨全会一致で決定。
4. 議題

### 議題 （1）第3期子ども・子育て支援事業計画の概要について

まず、本日の会議録を要旨とするか、一言一句記載する会議録とするのか意見を求めた。意見については委員名を記載し要旨として会議録作成することが全会一致で決定された。

議題 第3期子ども・子育て支援事業計画の概要について事務局（高瀬）から説明を行う。

意見交換審議

会 長 第3期子ども・子育て支援事業計画の概要のところで感想・質問・意見を求めます。

議事2 四万十町子育て支援に関するアンケート調査結果報告についてJMCから説明を行う。

会 長 これまでのところで質疑を求めます。何かありませんか。

事務局 今後の日程について説明を行う。

会 長 質疑を求めます。何かありませんか

高橋委員 次の会のときには素案ができあがっている感じになりますか。

事務局 はい。

会 長 他に質問等は何かありませんか

高橋委員 28 ページのところで、放課後子ども教室、放課後児童クラブを長期休暇中など、高学年になっても利用したいという割合が結構高く現場としては驚いている。多分どの子ども教室も高学年になると利用が減っていると思うが、この数字が上がっているということは、親御さんとしては行ってほしいけれど子どもが望んでいなくて行っていないという層が結構いるのではないかな。親御さんとしては家でゲームばかりするより行ってほしいとか、勉強しないから行ってほしいという希望があるけれども、実際は子どもが行きたくないと言うから行かせていない層があると思う。それを子ども教室で受け止めるのは結構難しい話なのではないかと思っていて、子ども教室は見守りの場という定義でできているので、その範囲の中で行ってもつまらないとかそういう層を受けとめるというのはなかなか難しい話だと思う。今後、57.9%の人たちを受け止めようと考えたと、子ども教室とかではなくもっと別の事業、地域学校協働本部とか、見守りではない積極的な体験ができるものとかサマースクールをできるようなシステムとか、何らか提供していかないと、子ども教室ではちょっと無理なのではないかなというのを感じましたので、素案を作られる際にちょっと検討いただければと思う。

事務局 検討します。

小松委員 第3期の素案をつくるときに、第2期と第3期のアンケートの比較はあるか。

事務局 素案のタイミングで検討します。

中岡委員 前回の計画で分かったところを見たとき、全体的な傾向としてはあまり変わってはいなかったが、小さい子どもさんのアンケート結果は、問34-1のところ、子育てについて不安や負担に感じるところを見ると、保育サービスや施設が利用しにくいからというところが17%、前回が見間違いがなければ5%だったので3倍に上がっている、あと相談相手や手助けをしてくれる人がいないからというのが、前回が7.5%で今回12.8%と上がっているところはあった。小学生について、そんなに目立って大きな変化はないように思った。全体的には良くなっている、具体的には変わらないけれども少し良くなっているのかなと思う。あとは、ひとり親世帯が多いと思った。全体的にはそんなに困り感がないところが多い、ボリュームとしてはないけれども、ひとり親世帯が多い分しんどい、相談先がなかったりして困っている世帯があるのかなと思って見た。

事務局 確かに配偶者がいないという方の回答で、他の地域の調査に比べても若干多いように見えるが、回答いただいた方が100%答えていたわけではないので、調査の理論に基づくと概ね全体の傾向に近いだろうと言え、今回の調査の回答された方については特に多いように見えるというような回答の仕方になり、そのように私達も感じている。

高橋委員 今の現状について育児休業とか子どもが病気時に休まなければならないのが大変という結果がいくつか出てきたと思うが、育児休業を取れるようになっている企業の行政からの支援ですとか、病気の子どものために休まなければならないときの支援みたいなものは現状何かあったりするのですか。

事務局 病児保育自体の支援は、ありません。

小松委員 病児保育という、どこかで見るとかでなくて、そのために例えば有休以外で休まなければいけないと収入が減る、そこに何かサポートがあるか。以前、どうしても町内で診てもらえる小児科や専門医が少ないので、皆その町外に行かなくてはならず、そのため休まなければいけないとか、そのための交通費が結構馬鹿にならないという意見も前の回答ではありました。アンケート結果に医療機関の不足が前回は抜いていた。

事務局 そこが現状として足りていないということがあります。支援がないことが、上がってきている。

小松委員 多分、病院には割と皆さん、諦め感が強いと思うが、病院を作れない代わりの支援を考えていけば。現状はない感じか。

事務局 自分の思いつく限りでは、そういった支援はないですが、オンラインサービスがあることでしょうか。電話で問い合わせができるオンライン診断というのはあります。

小松委員 そうですね。ホットラインなども県内で受け入れがあるので、一定成果はでていると思います。

会長 他に質問等は何かありませんか

なければ閉会とさせていただきますので、閉会の挨拶を副会長からよろしくお願いします。

福留副会長 それでは、これで令和6年度第1回目の会議を終了いたしたいと思います。皆さん、大変お疲れ様でした。

以上